

経営成績の概要

2019年3月期における当社グループを取り巻く経営環境は、世界経済全体として緩やかな回復が続きました。先行きについては、通商情勢が世界経済に与える影響、中国経済の変動、為替動向などに留意が必要な状況です。

当社グループは、研究開発力や生産技術の強みを活かした最先端商品および高信頼性商品に加え、コア技術を活かしたソリューションビジネスを軸に、自動車、情報インフラ、産業機器、ヘルスケア、環境・エネルギーなどの注力市場を攻略することにより、中期目標の達成および経営ビジョンの実現を目指しています。また、収益性の向上や将来の部品需要の増加に応える体制を構築するため、ものづくり力の強化を進めています。生産能力の増強に加え、要素技術の高度化と生産工法の変革を進めることで、生産効率の向上を加速していきます。

電子化・電装化が進行する自動車向け、通信システムの高度化やIoTの進展に伴い高性能化が進む基地局通信装置・データセンターなどの情報インフラ向けでは、大型・高耐圧・高信頼の部品需要が増加しました。また、スマートフォンなどの通信機器向けでは、機器の高機能・高性能化が続き最先端商品の需要が増加しました。その結果、コンデンサの売上が大幅に拡大し、増収増益となりました。

これらの結果、2019年3月期の連結売上高は前期比12.4%増の2,743億49百万円となりました。

なお、2019年3月期における期中平均の為替レートは1米ドル110.49円と前期の平均為替レートである1米ドル111.44円と比べ0.95円の円高となりました。

販売費及び一般管理費

2019年3月期の販売費及び一般管理費は470億26百万円となり、前期に比べ52億96百万円増加しました。

これは主に、研究開発費が増加したのに加え、売上増に伴って運賃及び手数料が増加したことによるものです。

この結果、営業利益は前期比74.3%増の352億37百万円となりました。

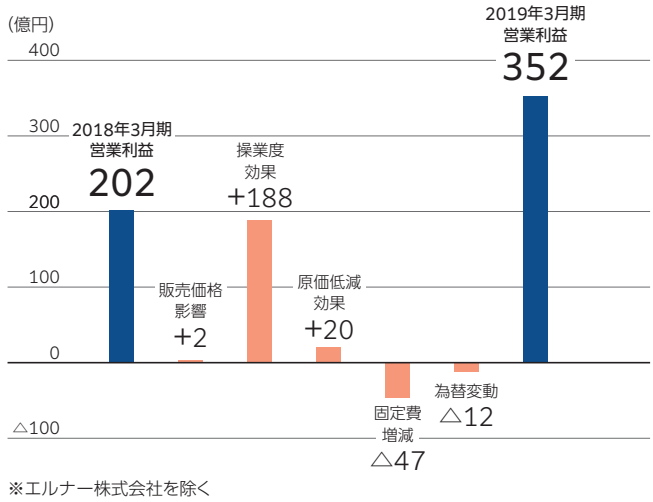
営業外損益

2019年3月期の営業外収益は助成金収入が減少したことなどにより前期に比べ13億3百万円減少し、14億96百万円となりました。一方、営業外費用は前期に比べ85百万円減少し23億82百万円となりました。この結果、経常利益は前期比67.1%増の343億51百万円となりました。

特別損益

2019年3月期の特別利益は投資有価証券売却益の発生などにより前期に比べ18億4百万円増加し18億25百万円となりました。特別損失は固定資産除売却損、減損損失が増加し、事業構造改善費用を計上したことから、前期に比べ72億16百万円増加し、80億66百万円となりました。この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比44.8%増の236億87百万円となりました。

2019年3月期営業利益増減要因



財政状態の概況

資産

2019年3月期末における総資産の残高は3,288億61百万円となり、前期末に比べ416億91百万円増加しました。流動資産は215億31百万円増加しており、主な要因は、現金及び預金の増加67億30百万円、受取手形及び売掛金の増加58億11百万円、仕掛品の増加47億89百万円です。また、固定資産は201億59百万円増加しており、主な要因は、有形固定資産の増加150億71百万円、のれんの増加58億37百万円です。

負債

2019年3月期末における負債の残高は1,229億7百万円となり、前期末に比べ58億55百万円増加しました。主な要因は、長期借入金の増加195億32百万円、未払法人税等の増加34億円、転換社債型新株予約権付社債の減少200億39百万円です。

純資産

2019年3月期末における純資産の残高は2,059億53百万円となり、前期末に比べ358億35百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金の増加212億33百万円、資本金の増加100億17百万円、資本剰余金の増加83億86百万円です。

キャッシュ・フローの状況

2019年3月期の営業活動によるキャッシュ・フローは429億67百万円の収入(前期比26.6%増)となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益281億10百万円、減価償却費265億47百万円、たな卸資産の増加額62億63百万円、仕入債務の減少額40億62百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは335億81百万円の支出(前期比24.8%増)となりました。主な要因は、固定資産の取得による支出425億62百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは16億3百万円の支出(前期は9億53百万円の収入)となりました。主な要因は、長期借入れによる収入220億24百万円、短期借入金の純減少額126億73百万円、長期借入金の返済による支出51億94百万円、自己株式の取得による支出30億1百万円、配当金の支払額24億49百万円です。

以上の結果、2019年3月期末における現金及び現金同等物は、前期末に対して78億16百万円増加し、516億54百万円となりました。

2019年3月期末の外部からの資金調達は、短期借入金231億52百万円、1年内返済予定の長期借入金24億77百万円、長期借入金284億15百万円からなっています。借入金は原則として日本において固定金利で調達しています。さらに、財務の安定性のため期間3年、100億円のコミットメントライン借入枠を設定していますが、2019年3月末現在未使用です。当社グループは、健全な財務状態と営業活動によりキャッシュ・フローを生み出す能力を有しており、当社グループの成長を維持するために将来必要な運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えています。

設備投資等の概要

2019年3月期は、総額425億62百万円の設備投資を実施しました。主な内容は、自動車、情報インフラ、スマートフォン等に向けて旺盛な需要が継続している積層セラミックコンデンサの生産能力増強のための投資です。